

(3) 茶山賛歌「茶山の星」

作詞…中山 善照
作曲…高月 啓

一 梢の鳥は鳥を呼び

学びの友は友を呼び
ともに集いし若人の
楠の木繁る学舎は
書を読む声の高らかに

子曰く

朋遠方より来るあり

また樂しからずや

茶山の星は道しるべ
茶山の星は道しるべ
年々歳々花相似たり
歳々年々人もまた

二 藍より出づるその青か

唐紅か若草か

人それぞれに美しく
競い咲きたる学舎は

子曰く

己の欲せざるところ

人に施すことなかれ

茶山の星は道しるべ
茶山の星は道しるべ
年々歳々花相似たり
歳々年々人もまた

三

銀杏かがやく神の宮
いにしえ語る黄葉の
夕陽を映す高屋川
せせらぎ流る学舎は
書を読む声の高らかに

子曰く

故きを温ねて

新しきを知る

山の星は道しるべ
茶山の星は道しるべ
年々歳々花相似たり
歳々年々人もまた

四

ひそかに光るその星は
市井に隠る大隱の
その名聲は隠れなき
書を読む声の高らかに

子曰く

人知らずして憤らず

また君子ならずや

茶山の星は道しるべ
茶山の星は道しるべ
年々歳々花相似たり
歳々年々人もまた

五

林にありて野にありて
学びの花は光陰の
時を経て咲く幾年の
風雪刻む学舎は
書を読む声の高らかに

少年老いやすく

学成り難し

茶山の星は道しるべ
茶山の星は道しるべ
年々歳々花相似たり
歳々年々人もまた